

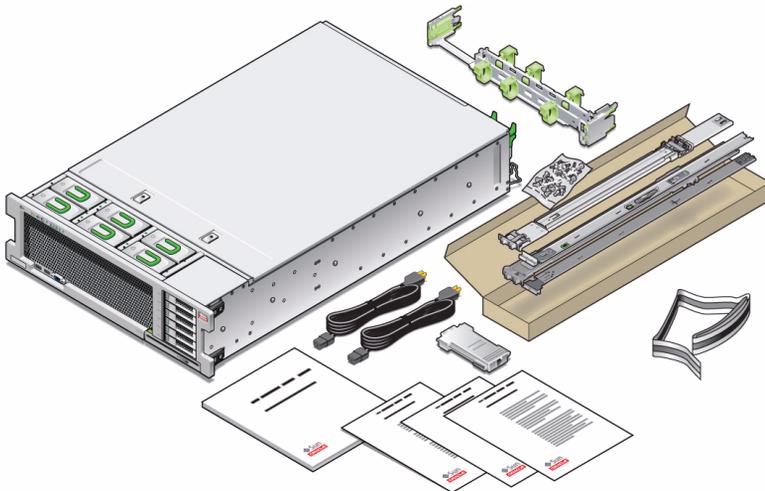
SPARC T3-2 サーバー

ご使用の手引き

このマニュアルでは、インストール済みの Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) をはじめて使用して Oracle の SPARC T3-2 サーバーの電源を入れ、起動するための最小限の手順について説明します。

設置手順については、『SPARC T3-2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

出荷パッケージの内容



数量	アイテム
1	サーバー
2	AC 電源コード (ご注文された場合)
1	RJ-45/DB-9 クロスアダプタ
1	静電気防止用リストストラップ
1	レールラック搭載キット
1	ケーブル管理アーム (ご注文された場合)
	各種ドキュメント

始める前に

設置および構成の簡易手順は、次のとおりです。詳細は、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t3.2#hic>にあるオンラインの製品ドキュメントセットを参照してください。

はじめてサーバーを設定する前に、次の点を確認してください。

- **指示が出るまで電源を入れない** — このシステムには、ホストサーバーの構成および起動に使用するサービスプロセッサ (Service Processor, SP) が搭載されています。ホストサーバーを適切に設定し SP メッセージが表示されるようにするには、このマニュアルで説明するように、SP とホストのネットワーク接続を行うまで、サーバーに AC 電源を入れないでください。
- **状況に最適な手順を選択する** — このマニュアルの簡易設定手順はどのようなネットワーク環境にも有効で、シリアルポートへの接続手段として端末デバイスを必要とします。ネットワーク環境で DHCP が動作している場合は、Ethernet 管理ポートを使用してシステムを構成することができます。DHCP セットアップメソッドの利点を活かすために、次に示すオンライン製品のドキュメントセットを参照してください。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t3.2#hic>
- **十分な時間を確保する** — 設置に要する時間はさまざまですが、この設定手順をはじめて実行する場合は、すべての手順が完了するまで 45 ~ 75 分の所要時間を見込んでください。オプションのハードウェアおよびラック搭載キットを取り付ける場合には、さらに時間を要することもあります。
- **端末デバイスを入手する** — ラックに搭載可能なこのサーバーの構成は、組み込み型のシリアルポートとネットワーク管理ポートを使用して SP を介して行います。グラフィカルインタフェースおよびのキーボードは使用しません。SP と通信するためには、端末、端末サーバー、または端末エミュレーションソフトウェアを実行するラップトップなどの端末デバイスが必要です。
- **構成情報を収集する** — 構成時に、使用する環境のタイムゾーンおよびネットワークパラメーターの入力を求めるプロンプトが表示されます。表 1 を使用して設定情報を記録してください。

表 1 設定情報

パラメータ	説明	入力内容
Language	表示された言語の一覧から番号を選択します。	
Locale	表示された地域の一覧から番号を選択します。	
Terminal Type	使用している端末デバイスに対応する端末のタイプを選択します。	
Network?	「Yes」を選択します。	
Multiple Network Interfaces	構成する予定のネットワークインタフェースを選択します。構成するネットワークインタフェースが不明である場合は、一覧の先頭のネットワークインタフェースを選択します。	
DHCP?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。	
Host Name	サーバーのホスト名を入力します。	
IP Address	選択した Ethernet インタフェースに IP アドレスを入力します。	
Subnet?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。	
Subnet Netmask	Subnet? で「Yes」を選択した場合は、使用しているネットワーク環境のサブネットのネットマスクを入力します。	

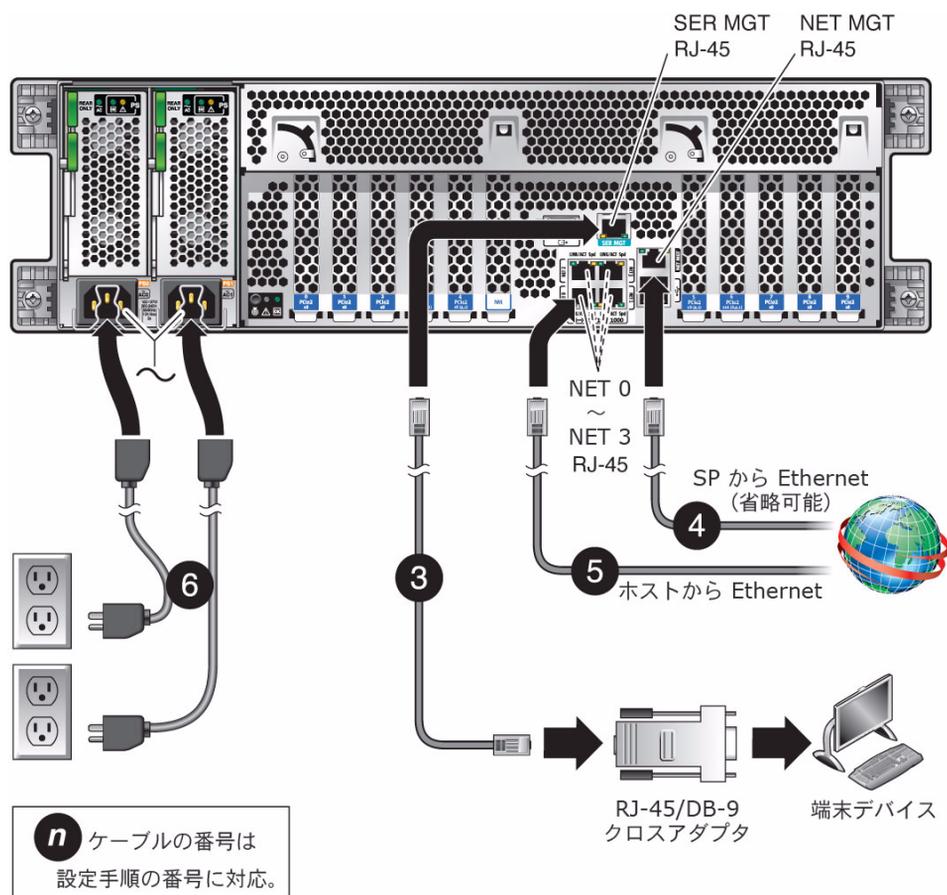
表 1 設定情報 (続き)

IPv6?	IPv6 を使用するかどうかを指定します。IPv6 を使用するかどうか不明である場合は、「No」を選択して IPv4 用の Ethernet インタフェースを構成します。	
Security Policy	標準の UNIX セキュリティー (No) または Kerberos セキュリティー (Yes) のいずれかを選択します。セキュリティーが不明である場合は、「No」を選択します。	
Confirm	画面上の情報を確認し、必要に応じて変更します。それ以外の場合は、処理を続行します。	
Name Service	使用しているネットワーク環境に応じて、ネームサービスを選択します。 注 - 「None」以外のネームサービスを選択すると、追加のネームサービスの構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。	
NFSv4 Domain Name	使用している環境に応じて、ドメイン名構成のタイプを選択します。ドメイン名構成が不明である場合は、「Use the NFSv4 domain derived by the system」を選択します。	
Time Zone (Continent)	該当する大陸を選択します。	
Time Zone (Country or Region)	該当する国または地域を選択します。	
Time Zone	タイムゾーンを選択します。	
Date and Time	デフォルトの日付と時刻を受け入れるか、値を変更します。	
root Password	root パスワードを 2 回入力します。このパスワードは、このサーバーの Oracle Solaris OS のスーパーユーザーアカウント用です。このパスワードは、SP のパスワードではありません。	

簡易設定手順

1. サーバの梱包を開き、出荷パッケージの内容がすべてそろっていることを確認します。
詳細は、「[出荷パッケージの内容](#)」を参照してください。
2. 確認のためにサーバーを設置予定の場所に置きます。
ラック搭載の手順については、オンラインの『SPARC T3-2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。
3. サーバーの SER MGT ポート (図 1) と端末デバイスを、シリアルケーブルで接続します。
この接続で、SP との最初の通信が行われます。
このデバイスの通信設定は、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビットにします。ヌルモデム構成が必要です。つまり、DTE 間の通信で送受信の信号が逆になるようにクロスされます。標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45 クロスアダプタを使用して、ヌルモデム構成を実現できます。

図 1 サーバー接続



4. (省略可能) サーバーの Net MGT ポートと、SP およびホストにあとで接続されるネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。

SER MGT ポートを使用してシステムの初期構成を行なったあと、通常、SP およびホストとの通信はこの Ethernet インタフェースを介して行われます。

5. サーバーの NET ポートの 1 つと、サーバーが通信するネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。

6. 電源コードを電源装置および別個の電源に接続します。

サーバーに電源装置が 2 つ搭載されている場合は、それぞれを別個の電源に接続して、システムの電源を冗長化します。システムは 1 つの電源接続で動作できますが、電源が 1 つだけの場合は冗長性がなくなります。

電源が接続されると、SP が初期化され、電源装置 LED が点灯します。数分後、SP ログインプロンプトが端末デバイスに表示されます。ホストはまだ初期化されておらず、電源も入っていません。

7. 端末デバイスで、パスワード `changeme` を使用して、`root` として SP にログインします。

```
SUNSP00144FAC732F login: root
Password: changeme
. . .
->
```

しばらくすると、SP プロンプト (`->`) が表示されます。

この時点で、Integrated Lights Out Manager (ILOM) インタフェースを使用して実行できるコマンドは多数あります。たとえば、`admin` という名前のユーザーを作成し、`cuar` (コンソール、ユーザー管理、管理、リセットとホストのコントロール) 権限を持つように `admin` を設定するには、次のように入力します。

```
-> create /SP/users/admin role=cuar
Creating user...
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
Created /SP/users/admin
```

この例のアスタリスクで示された部分は、実際にパスワードを入力する際には表示されません。

パスワードの変更方法、SP ネットワークパラメーターの設定方法など、その他の SP に関する情報はオンラインドキュメントセットで参照できます。

8. サーバーの電源を入れ、シリアル端末デバイスに表示するようにホスト出力をリダイレクトします。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/CONSOLE (y/n)? y
Serial console started.
. . .
```

SP コンソールを起動したあと、サーバーの初期化が完了するまでに約 20 分かかります。

9. プロンプトが表示されたら、画面上の手順に従って構成情報を入力します。

設定情報と入力内容の一覧については、[表 1](#) を参照してください。構成の確認を求めるプロンプトが数回表示されるため、そこで確認と変更を行うことができます。特定の値に応答する方法が不明である場合は、デフォルトを受け入れて、あとで Oracle Solaris OS が実行しているときに変更することができます。

構成メニューを完了するとサーバーが再起動され、Oracle Solaris ログインプロンプトが表示されます。

10. サーバーにログインし、機能を調査します。

次のコマンドでは、システムについての情報が提供されます。

- `showrev` – ホスト名およびシステムアーキテクチャー情報を表示します。このコマンドに `-a` オプションを指定すると、インストールされているパッチを確認できます。
- `psrinfo` – ホストのプロセッサおよびコアの番号と状態に関する情報を表示します。

詳細は、Oracle Solaris OS のマニュアルページおよびドキュメントを参照してください。

その他の情報の参照先

この製品に関するその他の情報は、次の Web サイトから参照、印刷、またはダウンロードできます。

- Oracle の SPARC T3-2 サーバードキュメントセット (『ご使用にあたって』など重要なマニュアルを含む)
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t3.2#hic>
- 各種ドキュメント (ローカライズ版を含む)
<http://docs.sun.com/>
- プリインストールされている Oracle Solaris OS に関する情報
<http://www.sun.com/software/preinstall>

技術サポート

このマニュアルに記載されていない技術的な問い合わせについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

ドキュメントのフィードバック

ご意見は、次の Web サイトで「Feedback[+]」リンクをクリックしてお送りください。

<http://docs.sun.com/>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルとパーツ番号を記載してください。

『SPARC T3-2 サーバードキュメントのご使用の手引き』、Part No. 821-2894-10

Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

